



団体の発足

1993年に、親子でプロの生の舞台を鑑賞する団体として発足。

以来24年間、観劇だけでなく子育て講演会、わいわいフェスティバル、アートスタート事業など様々な活動を地域で展開しています。

また一方、ボランティア活動として毎週水曜日に『親子で絵本を楽しむ会』を地域子育て支援センターひまわりにて開催し、

乳幼児からの絵本との関わりの大切さ・奥深さを、同じ母親目線

で若いお母さん方にお伝えする活動を実施している。

ブックスタートとの出会い

2015年より1名の会員がブックスタートボランティアのスタッフとして活動しています。

まだ2年目と日は浅いですが、今後はスタッフの数を増やしていくことを目指していきます。



スタッフの感想

私自身、境港に越してきて二人目の一か月半の健診の時、境港市さんからわらべうた絵本を一冊プレゼントしていただき、当時の図書館長さんから作/谷川俊太郎、絵/元永定正の『もこもこ』の大型絵本を読んでいただきました。

それまでも上の子を含め何度か読んでいた本でしたが、他の方に、しかも母親も一緒に読んでいただいたのが初めてでしたのでとても新鮮で、またその絵本の中に新たな発見もあり、とても感動したのを覚えています。以来この絵本は私たちの大好きな絵本の一冊となりました。

今回こうしてスタッフとして関わらせていただいて、自分が地域の親子さんに初めての絵本体験のきっかけを提供することができるという責任の重さとその嬉しさでいっぱいです。これからも絵本を中心にした子育て、家庭健康を提案していきたいと思えます。

そのような場を与えて下さって本当に有難うございます。

(岩本裕美)



市民図書館の設立

市民図書館は、昭和29年に境港町立図書館として発足し、同31年に県に移管され「鳥取県立米子図書館境港分館」となりました。昭和52年に同分館が境港市に移管され、「境港市立図書館」（現在の市民図書館分館）が開館しました。昭和62年に現在の本館が新設された折に、名称も「境港市民図書館」と改称され現在に至っています。

活動内容

公共図書館の使命は、昨今の知識基盤型社会の進展に伴い、1970年代の「貸し出し中心のサービス」から「地域の課題に対応したサービス」の提供へと大きく方向転換してきました。

具体的には、

- ①就職・転業、起業、職業能力開発や日常の仕事に関する「ビジネス支援」
- ②子育てや教育に関する「子育て支援」
- ③健康・医療や福祉に関する「介護支援」「闘病支援」
- ④市の行政事務に関する「行政情報提供」

など、個人生活や地域づくりの向上につながるサービス提供が図書館の役割・使命となりました。（課題解決型図書館）

市民図書館では、本館に「ビジネス支援」「子育て応援」「闘病記文庫」の特別コーナーを開設し、細々ではありますが、それぞれの関連情報の提供に努めています。特に「子育て支援」については、情報提供に限らず、市内の読みきかせ団体のご協力を得て、“絵本の読みきかせ”を毎週土曜日の午後に行っていますし、市民図書館主催で親子の触れ合いの機会となる“ものづくり体験”等のイベントを開催しています。

新しい図書館の建設について

現在、境港市は、「美保飛行場周辺まちづくり構想」の一環として、市民会館と図書館等が一体となったホール機能を有する複合施設の建設を計画しています。この計画によると新しい図書館は、現在の市民図書館本館の約3倍近くの広さとなります。

新しい図書館は、快適な環境になるだけでなく、国際交流の拠点都市、観光都市として益々発展が見込まれる境港市の新たな課題に対応するサービスを提供し、本市の発展に貢献できる力を備えていかなくてはならないと考えています。

